人口減少社会にあっての芽室町は？ このまちの人口局面

18,000人台から17,000人台に突入

3ページの目次の下に「人の動き」というコーナーがあります。

今月号ではこのコーナーに、「ここに注目！」というマークをつけていましたがお気づきでしたでしょうか？

2月末時点での人口が17，998人となり、2005年に18，000人台に到達して以来、18年ぶりに18，000人を割り込みました。

広報担当は、毎号のすまいるを編集する際、校了間際に住民窓口係から必要なデータをもらい「人の動き」コーナーを完成させます。人口と世帯数の数字は1年前の同じ時期と比較をしていますが、人口は100人単位で減る傾向がある一方、世帯数は10件単位で増えていく傾向が続いていました。

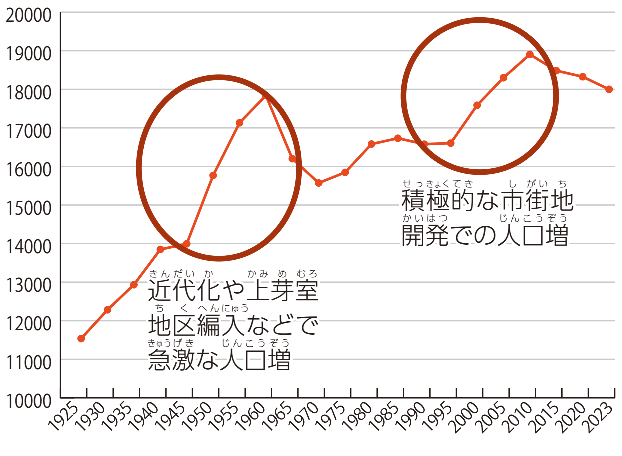
今月号では、この人口について、単に人が減ってきて良くないというこことではなく、深く考えるきっかけとしたいと考えています。

ふりかえる芽室町の人口の推移

芽室町の人口のピークは2008年末の19，441人。このころは、東めむろ地区の宅地造成が一段落したころ。このような大規模な宅地造成も人口増につながる要因の一つ。

ここで、少しさかのぼって芽室町の人口推移をグラフとともに見てみます。（表1）一つ目の大きな山となっている部分は、1949年ごろからおよそ10年間を指しますが、地方自治の近代化と各種施策が活発に行われました。重点方策として、教育施設の整備、住民福祉のための施設と事業、産業の振興、交通土木事業の整備、総合開発事業などが順調に進展し、新たな施設整備や開発事業が行われました。国立農業試験場十勝支場の新設や道立農業試験場畑作部の設置決定、上芽室地区の編入などにより大幅に人口が増えています。

しかし、その後は、離農による農家戸数の減少、農家子弟の町外流出、家族人員の減少、市街地への転居などにより、農村部の人口減少が1968年まで続きます。



その後、1995年までは、なだらかな人口推移となりますが、以降の新たな市街地開発による住宅地整備が進み、2005年に18，000人を突破、その後も人口増加が続いていましたが、住宅地整備が終了したことなどで、2015年以降、人口減少局面を迎えています。

人口増減の要因は自然増減と社会増減

人口が増減する要因は、死亡数と出生数の差による「自然増減」と、転出数と転入数の差による「社会増減」の二つの側面があり、出生数が死亡数を上回ると「自然増」となり、転入数が転出数を上回ると「社会増」となります。次ページの表2に示すとおり、2022年1月1日現在の動向では、芽室町は「自然減」、「社会減」の状態です。

十勝管内の人口増減の傾向は？

2022年1月1日現在の十勝管内全体の状況を7ページの表で示しています。（表2）

十勝全体で「自然増」となっているのは更別村。「社会増」となっているのは、帯広市、上士幌町、鹿追町、中札内村、更別村、大樹町、幕別町となっています。

日本全体では、都市部で社会増が起こり、少子高齢化の影響で自然減の傾向にあるとされています。

市町村名	人口(人)	前年比(人)	増減率(%)	自然増減数(人)	社会増減数(人)
帯広市	165,047	-623	-0.38	-850	227
音更町	43,483	-562	-1.28	-273	-289
士幌町	5,946	-81	-1.34	-52	-29
上士幌町	4,935	-29	-0.58	-51	22
鹿追町	5,228	-19	-0.36	-22	3
新得町	5,668	-167	-2.86	-104	-63
清水町	9,157	-148	-1.59	-105	-43
芽室町	18,181	-145	-0.79	-117	-28
中札内村	3,913	-9	-0.23	-12	3
更別村	3,177	26	0.83	4	22
大樹町	5,423	-28	-0.51	-40	12
広尾町	6,359	-188	-2.87	-81	-107
幕別町	26,273	-170	-0.64	-185	15
池田町	6,288	-152	-2.36	-95	-57
豊頃町	3,031	-57	-1.85	-38	-19
本別町	6,545	-188	-2.79	-95	-93
足寄町	6,545	-139	-2.08	-92	-47
陸別町	2,279	-35	-1.51	-21	-14
浦幌町	4,416	-128	-2.82	-58	-70
十勝全体	331,894	-2842	-0.85	-2287	-555

表2 ▲十勝管内の人口動態（2022年1月1日現在。住民基本台帳に基づく）

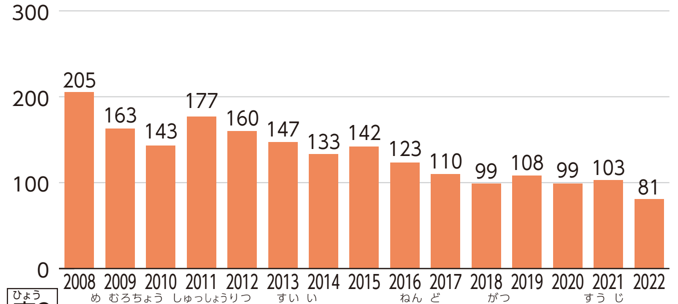


表3 ▲芽室町の出生数の推移（2022年度は1月までの数字）

一方で十勝管内では、様々な市町村で特徴的な数字が表れています。それぞれの市町村に、自然増減となった要因、社会増減となった要因があると思いますが、芽室町の場合はどうでしょうか。

自然減の実感

出生数に着目します。（表3）前のページの人口のピークと同様、芽室町の出生数も2008年の205人を境に徐々に減少傾向が続いています。ここ5年間は100人前後を推移しており、2月号の二十歳を祝う会の出席者が164人であったことを考えても、若い年代が少なくなっていることを実感します。

社会増減は堅調

次に社会増減の状況ですが、確かに全体ではやや社会減の傾向にありますが、これをもっと細かく年代別に見ていくと、「未就学」と「30代」は転入超過にあり、子育て世代の転入が多い傾向にあることがわかります。

年代別に自然増減や社会増減をみつめる

このように人口動態を分析し、様々なまちづくりの事業に結びつけています。

新年度の目玉となる事業は、4月号の特集でお伝えしますが、例えば、高齢者の皆さんにいつまでも元気に生き生き活動していただくための運動教室や、これまで中学生までとしていた医療費無償化を18歳まで拡大すること、不妊治療助成の拡大、結婚した方への補助金の交付といった事業を実施していきます。

また、起業したい人の相談窓口や起業支援、縁があって転入した人が、この町を気に入り、住み続けたくなるような住宅支援など、多種多様な取り組みを展開していきます。

昼間人口や関係人口という考え方

一方で、日本全体が人口減少局面を迎える中、わが町の人口だけに目を向けるのではなく、様々な切り口からこの課題をとらえることが大切です。

具体的には、「昼間人口」や「関係人口」といった考え方です。

昼間人口は、日中にどれくらいの人が滞在しているかを示していますが、芽室町は、昼間人口が多い傾向にあります。これは、町外から働きに来ている人が多いとも言え、住んではいないが、お仕事などで芽室町に関わる人。こうした皆さんが、町内で買い物をするなど住みやすさを実感し、やがて転入してくれる、そういった循環も目指しています。

また、「関係人口」もよく聞く言葉になりました。観光やふるさと納税など、なんらかの形で芽室町を好きになり、外から応援してくれる皆さんを言います。地域ブランディングの取り組みなど、まちではこうした芽室町のファンづくりにも積極的に取り組んでいます。

いかがでしたでしょうか。今回は、人口を切り口に、町の傾向やその対策について考えてみました。

住み続けたくなるまち、住みたくなるまちを目指した取り組みは続きます！

第29回横井七之助旗争奪 北海道中学校新人柔道団体優勝大会 男子３人制の部優勝

３人制初代王者が誕生

３人は、昨年11月末に行われた道中学校柔道新人団体優勝（横井旗）大会 男子３人制の部の優勝メンバー。

主将を務めた石渡さんは「最初は優勝をあまり意識していなかった」そうですが、柳澤さん・昏本さんの勝ちを狙う姿勢に触れ、モチベーションが高まったそうです。

次の目標は…

普段は別の道場に通っている３人ですが、柔道の魅力について『投げたときの感触、爽快さ』と口を揃えます。

来年度は中体連のルール改正により、この３人で団体出場の予定はないそう。次の目標は「全道ベスト３に入りたい（石渡さん）」「全道優勝で全国へ（柳澤さん）」「個人で全道出場（昏本さん）」と個人に照準を合わせ、目を光らせています。

芽室西中学校２年生 66kg級
柳澤　久善さん

柔道を始めたのは小学３年生からで、友人の弟がやっていたのがきっかけだそう。得意技は内股、強みは力の強さ。

影響を受けた選手は大野 将平さん。

芽室西中学校２年生 90kg級
石渡　一汰さん

祖母の「何かスポーツをしてほしい」との勧めもあり、年中のとき柔道を始める。得意技は払い腰、強みは組手、技術への思考力。

影響を受けた選手はウルフ・アロンさん。

芽室西中学校２年生 50kg級
昏本　駆さん

小学２年生のとき、テレビで見た柔道に惹かれ、競技を始める。得意技は体落、強みは自分から積極的に動く姿勢。

影響を受けた選手は阿部 一二三さん。

少年軟式野球ＣＢＳ「６年生選抜大会」全国大会で優勝！

芽室小学校６年生
今野　元陽さん

小学３年生から野球を始める。所属していた芽室ジャガーズでは、ピッチャーとサード、ショートを務める。芽室中学校に進んでも、野球部で野球を続けたい。

管内の６年生選抜に選出

昨年７月ごろ「十勝管内の６年生に選抜に選ばれた」と声がかかる。普段から対決している同学年のライバルたちと同じチームで野球ができることがわかり「やったー！と気持ちが高ぶった」とそのときを振り返ります。

全国の強豪との対決に手応え

大会は３日間で６試合を戦うというハードスケジュール。今野さんは、６試合中３試合に登板。各所属チームのピッチャーが多く集まっているオールとかちチームの中でも抜群の安定感で、全国のバッターとの対決には手応えがあった様子。「自分は真っ直ぐで押すタイプ。空振り三振もたくさん取れたので、手応えがあった」と振り返ります。

一方、打者としては全国レベルの球の伸びがすごく、「思うように打てなかった」と振り返ります。

それでも、一試合ずつ勝ち続けるうちに、みんなが優勝に向かって同じ気持ちになっていることを実感できたそう。「準決勝を４回投げて０点に抑えたこと、ピッチャーゴロでゲッツーを取ることができたことが自信につながった」と話します。

将来の夢はプロ野球選手！

将来進む高校やその先のステージでも、今回対戦した選手たちとの再会もモチベーションになるのではないでしょうか。

ずばり、将来の夢はプロ野球選手！「大谷翔平選手のような二刀流を目指したい！」と力強く語ってくれました。

撮影時のみマスクを外していただきました。

芽室出身者初のJリーガーが誕生!

阿部　諒弥さん

ポジション：GK

© S-PULSE

プロフィール

2001年３月３日生まれ
身長193cm、体重75kg

サッカー歴

芽室サッカー少年団 - 帯北アンビシャス（現：帯北 FC U-15）- 帯広北高校 - 中央学院大学
2023シーズンより清水エスパルスへ加入

清水エスパルスとは…

静岡県静岡市をホームタウンとする名門。
Ｊリーグ創設当初の10チームのうちのひとつ。

快挙達成の阿部さんにオンライン取材

今年、プロサッカークラブ『清水エスパルス』への加入が決定した阿部選手にオンライン取材を行いました。

▲今回の取材は、Ｊリーグでプレー経験のある横野 純貴さんに同席いただきました

プロ入りについて「まだ実感がない。でも、これまでやってきたことが認められたのかなと思います」と話す阿部選手。

サッカーを始めたのは小学２年生のとき。サッカー好きのお母さんに連れられ、芽室サッカー少年団に加入。最初はジャンケンでGKを決めていましたが、しだいにシュートを止める魅力に気づき、３年生の頃にはGKとしてプレーをしていたそうです。

地道な努力が実を結ぶ

中学生からクラブチームに所属し、早くからプロになりたいと思っていた阿部選手ですが「どうすればプロになれるのか、現実味がなかった。中学・高校でもスターティングメンバーになれたのは３年生の頃。早くから試合に出ていた選手ではなかった」と振り返ります。

それでも中・高・大それぞれのステージで、自身を分析し、課題を克服することで着実に力を付けてきました。

阿部選手の自己分析・取組の例

中学生のころ
特徴がない選手だった。背が高かったので、セービングを磨いてシュートを止めて評価される選手になる。

高校生のころ
現代サッカーはGKも足元の技術を要求される。ドリブルやリフティングを疎かにせず、技術を磨く。

大学生のころ
周囲のプレーのスピード感が高レベル。対応できるようパワーや筋力を付けていく。

現在の目標は、同チーム所属の権田修一選手。昨年のW杯で大活躍した名手で「一つ一つのプレーにとにかく無駄がない。当たり前の基準が高い」とレベルの高さを感じながら練習を共にしているそうです。

今年の目標は試合出場。阿部選手の活躍に、期待大です。

阿部選手から芽室町の皆さんへ

©S-PULSE

▲長身を活かしたセービング、ハイボールの処理能力が武器の阿部選手。今季の試合出場が待ち遠しいですね

大好きな故郷からのプロサッカー選手第一号ということで、とても嬉しく思っています。練習環境にも恵まれていて、この町の出身でなければサッカーをやっていなかったかもしれません。

見ている方々に勇気や元気を与えられるプレーがしたいと思っています。暖かい目で応援をよろしくお願いします。